



Developing a scale to measure Japanese nurses' individual readiness for deployment to disasters

Maeda, Takayo

(Degree)

博士 (保健学)

(Date of Degree)

2019-03-25

(Date of Publication)

2020-03-01

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第7498号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1007498>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



(様式 3)

論文内容の要旨

専攻領域 国際保健学領域

専攻分野 国際保健協力活動分野

氏 名 前田 隆代

論文題目(外国語の場合は、その和訳を()を付して併記すること。)

Developing a scale to measure Japanese nurses' individual readiness for deployment to disasters

(日本における看護師の災害派遣準備評価尺度の開発)

論文内容の要旨(1,000字~2,000字でまとめること。)

【目的】

本研究の目的は、日本の看護師の災害派遣準備評価尺度の開発及びその信頼性・妥当性の検証である。

【方法】

筆者は2014年の先行調査において、1997年に米国で開発された READI (Readiness Estimation and Deployability Index) の日本語版を開発した。さらに、日本文化の特徴的な側面を考慮し、社会的スキルを加え、予備調査で得られた45項目(5段階リッカート尺度)と属性および災害関連項目で構成する無記名自記式質問紙調査を作成した。調査対象は厚生労働省医療動態調査(2015年4月現在)データを元に全国の100床以上の医療機関から1/2(計975施設)を抽出し、同意が得られた看護師1,802名である。その際(i)東日本大震災の被災地に派遣された看護師、及び(ii)災害派遣未経験であるが災害派遣に興味を持ち、勤務経験10年以上の看護師を選択基準とした。郵送法により251施設の看護管理者を介して無記名の自記式質問紙を配布し、個別投函により回収した。得られたデータに対する項目分析の後、探索的因子分析(EFA)と確証的因子分析(CFA)により構成概念妥当性を

査定し、外部基準と尺度の相関により基準関連妥当性を検討した。併存的妥当性は、先行研究により東日本大震災への派遣経験のある者が高得点になると予測して、群別の平均値の差を検定した。信頼性はCronbach α 係数により内的整合性を評価した。さらに、重回帰分析を行い、尺度得点と対象者の特性および災害経験の間の関連性を確認した。本研究は神戸大学大学院保健学研究科倫理委員会の承認を得て実施した。統計解析にはSPSS 23.0 for Windows と AMOS 23.0 for windows を用いた。

【結果】

質問紙の回収数は1,149名(回収率63.8%)であり、全項目に回答した964名(有効回答率53.5%)を分析対象とした。819名(85%)が女性で、平均年齢は44.1 \pm 7.5歳、看護師経験平均年数は21.3 \pm 7.7年、389名(40.4%)は東日本大震災に派遣され、647名(67%)の者は過去に災害訓練を受けていた。項目分析とEFA(主因子法、バリマックス回転)の結果、8項目が除外され、37項目6因子構造の最適解を得て、これを日本の看護師の災害派遣準備評価指標(Japanese Disaster Nursing Readiness Evaluation Index, 以下JDNREI)とした。CFAの結果はGFI=.858; AGFI=.838; CFI=.897; RMSEA=.058であり、仮定したモデルの適合は許容範囲であった。尺度全体のCronbach α 係数は0.93であり、高い内的整合性が確認できた。JDNREIの合計得点と外部基準の間には0.5の有意な相関がみられた。さらに、東日本大震災に派遣された看護師は派遣経験のない看護師に比べ有意な差がみられ、派遣経験者はJDNREIの得点が高くなるという予測が検証された。重回帰分析の結果、派遣期間の留守家族へのサポート体制の確保及び事前に災害派遣要員として指名されることが有意な関連要因であることが明らかになった。

【結論】

本研究により、将来の災害に対して看護師個々の派遣準備のレベルを図る尺度が開発され、その信頼性と妥当性が検証された。JDNREIは、病院内の教育訓練の効果的なプログラムの開発や看護管理者が適格者を選定する重要な根拠としての活用を通じて、さらなる災害派遣活動の向上に貢献するものと考えられる。(1,219文字)

指導教員氏名: 小寺さやか

(別紙1)

論文審査の結果の要旨

氏名	前田 隆代		
論文題目	Developing a scale to measure Japanese nurses' individual readiness for deployment to disasters (日本における看護師の災害派遣準備評価尺度の開発) (外国語の場合は、その和訳を併記すること。)		
審査委員	区分	職名	氏名
	主査	准教授	小寺 さやか
	副査	教授	中澤 港
	副査	教授	松尾 博哉
	副査		印
要 旨			
<p>本研究は、日本の看護師の災害派遣準備評価尺度の開発及びその信頼性・妥当性を検証したものである。2014年に同研究者で開発した日本語版READI(Readiness Estimate and Deployability)を基に、さらに日本の看護活動の特徴的な側面を考慮し、45項目から構成される新たな災害派遣準備評価指標 (Japanese Disaster Nursing Readiness Evaluation Index:JDNREI) 案を作成した。全国の100床以上の医療機関から1/2 (計975施設) を抽出し、同意が得られた看護師1,802名に無記名の自記式質問紙調査を実施した。なお、東日本大震災の被災地に派遣された経験を持つ者及び災害派遣未経験者であるが災害派遣に興味を持ち、勤務経験10年以上の看護師を選定基準とした。計1,149名から回答が得られ (回収率63.8%)、有効回答は964名 (53.5%) であった。項目分析とEFA (主因子法、バリマックス回転) の結果、8項目が除外され、37項目6因子の最適解を得た。CFAの結果、GFI=.858, AGFI=.838, CFI=.897, RMSEA=.058であり、モデルの適合度は許容範囲内であった。尺度全体のCronbach係数は0.93であり、高い内的整合性が示された。さらに、JDNREIは災害派遣経験の有無で得点に有意な差が認められた。本指標は、わが国で初めて開発された看護師の災害派遣準備態勢を評価する指標であり、新規性が高い。また、今後災害派遣のための教育プログラムの開発や派遣者の選定に役立つなど活用可能性が高い。論文審査においては、上記の点などについて質疑応答を行い、学位申請者から説明を受け、本研究の価値を認めた。</p> <p>以上より、学位申請者の前田隆代氏は、博士 (保健学) の学位を得る資格があると認める。</p>			
掲載論文名・著者名・掲載 (予定) 誌名・巻 (号), 頁, 発行 (予定) 年を記入してください。 <u>Takayo Maeda, Sayaka Kotera, Nobuko Matsuda, Carol A. Huebner. (2018)</u> Developing a scale to measure Japanese nurses' individual readiness for deployment to disasters. <i>Nursing & Health Sciences</i> , 20(3), 346-354.			